

ビジュアルと言語表現の融合におけるデザインの可能性 —「俳句とコピーライティング」の効果的な教育指導法を目指して（Ⅱ）

柴田奈美・桑野哲夫・八尾里絵子・木塚あゆみ

1. はじめに

デザイン学部造形デザイン学科専門科目に、平成19年度から「俳句とコピーライティング」が演習科目として加わった。授業の目標は「言語表現に興味を持ち、積極的に俳句創作、キャッチコピー創作を行うことを通して、コピーライティングの必要性を理解し、言語感覚を身に付ける」というものである。しかし、言語表現に対して苦手意識を抱く学生が多く、授業では動機付けの工夫が必要である。

平成19年度、20年度の授業で、「俳句作りと句集の装丁」という、言語表現とビジュアル表現を融合させた課題を出したところ、学生は熱心に取り組んだ。この方向で授業研究を重ねていくことは、有意義であることを授業を通して確信した（注1）。

デザイン教育において、モノをよく見ること、視覚で捉えた内容を言葉で表現すること、また言語表現をビジュアル表現に変換する訓練は意義あるものと考えられる。そこで平成21年度はコミュニケーションデザインを専門とする桑野哲夫教授、情報デザインを専門とする木塚あゆみ助手、日本文学（特に俳句）を専門とする筆者が協力して、未だ先行研究の少ない「ビジュアルと言語表現の融合におけるデザインの可能性」というテーマで、教材開発の研究に取り組んだ。本研究では、CG、メディア芸術を専門とする八尾里絵子講師にも参加していただき、研究を継続した。

2. 研究の目的

研究の目的は、昨年度の研究をさらに深め、動画を含めたビジュアル表現と文章表現の融合へと、研究対象を広げる方向に教材研究を向かわせる準備を行うことである。

具体的には次の3点である。

第一は、学生の感性を磨き、文章力・観察力・イメージ力・表現意欲を高める教材の開発を進めることである。昨年度の研究に引き続き、平成21年度の学生作品を、ビジュアル表現と言語表現の面から詳しく分析し、優れている点や改良すべき点を明らかにする。それをパワーポイントに取り組み、学生に提示できる教材に仕上げる。また、すでに商品となっている句集や詩集、写真集などを入手し、分析を行い学生に提示できる教材に仕上げる。

第二は、授業「俳句とコピーライティング」の授業者のコメント能力を高めることである。ビジュアル表現と言語表現とを同時に分析していくことにより、両者を融合した作品への的確な評価を行い、具体的なコメントを行う能力を高めることで

ある。

第三は、「文章のビジュアル化」「ビジュアルの文章化」という視点で、新たな教材研究の方向を見いだすことである。CG・メディア芸術の専門の教員に加わっていただくので、動画と文章表現との融合の方向に研究を進めていく準備を行う。

3. 研究計画

6月上旬	研究の打合せ
6月上旬～7月	資料収集
8月～9月	平成21年度の学生作品分析、資料収集 教材作成・論文執筆準備
10月～11月	平成22年度「俳句とコピーライティング」 授業研究、教材完成
11月上旬	研究論文完成
12月	新たな教材研究の方向を見いだす
1月	「俳句とコピーライティング」研究授業
2月～3月	報告書作成、今後の研究の方向性の検討

4. 研究方法

本研究では、前回の分析において代表句の文字のビジュアル化にまで工夫のされているものが少なかった点を改善するために、装丁を考えさせる時に、俳句の内容にふさわしく、主題を効果的にフォントで表現するように、特に強調して指示を与えた。

よって今回は、代表句のフォントの選び方によって平成21年度の学生作品を分類し、分析を行って作品の傾向を探る。

5. 研究結果

平成21年度の学生の38作品を、代表句のフォントの選び方によって分類したところ、次のような結果となった。（図4参照）

- (1) 明朝体……「あの夜の君に」「千夜一夜」など17作品
- (2) ゴシック体……「アラーム」「WITH YOU WITH ME」など7作品
- (3) デザイン体……「脳内シアター」「放課後セレナーデ」など14作品

一部の作品の解説を次に記しておく。

- ①「あの夜の君に」井上麻美（図1参照）

無数の宝石の薄片が、きらめきながら夜空に渦を巻きなが

ら広がっている。「あの夜の君に」という題字が白抜きの明朝体で、控えめに書かれてあり、繊細な印象を受ける。帯は本体と一体化した黒で、星をイメージしたデザイン体で代表句「両の掌でうけようか／この星月夜」とあり、表紙の宝石片が星のきらめきを象徴していることがわかる。帯文には「吐息しろい夜ひとり帰り道。／見上げるとそこには今にも降り出しそうな星空が。／「瞬きするのがもったいないね」／こんな夜は、君が鮮やかによみがえる。」とある。星空を象徴した宝石のきらめきは、鮮やかに蘇る恋人のイメージに重なっていく。帯の右端の白抜きの王冠は印象的であるが、さらに黄色にすると本屋で平積みになされた時に目立つであろう。

②「アラーム」田中美穂（図2参照）

紺から水色、薄いピンク色へと、グラデーションの美しい色使いである。窓を白抜きにした家々を描き、その中で一番大きな家の屋根に風見鶏が白抜きで描かれている。そして、題名の「アラーム」と名前が鳥の鳴き声のように描かれている。帯は表紙のビジュアルと一体化している。代表句は白抜きのゴシック体で「寒暁や／熱きカップを手／つつむ」と三行で記す。帯文には「変わらない朝／（一字分下げて）日々のはじまり／おなじ、アラーム」とある。

寒暁の時間をグラデーションで表し、目覚まし時計のベルによって目覚める人々の暮らしを、白い窓で表現したことがわかる。薄いピンクには、熱い飲み物を飲んで、朝のエネルギーの漲っていくのが感じられる。アラームの力強さをゴシック体で表現したものだが、もう少し大きな字にすると、さらにインパクトのある作品になったと考えられる。

③「脳内シアター」白髭 基（図3参照）

薄いグリーンの背景に人間の脳がピンク色で線描され、中央にデザイン体の白抜き文字で「脳内シアター」と題名が書かれている。

その下には、名前をカタカナのデザイン体の白抜き文字で、題名と同じ大きさで記している。人間の脳というインパクトのある物を題材として描いているが、色使いがおとなしいことにより、印象は穏やかである。文字がくねくねとしており、脳みそをイメージさせる。文字とビジュアルが一体化していることが、工夫の一つとして挙げられる。帯は脳を描いたピンク色を使用し、全体が2色使いとなっており、整った印象を受ける。代表句はデザイン体の白抜き文字で、題名の字体と同じで「満月を／食い散らかすは／イワシ雲」とある。夜の鰯雲が、満月を食い散らかしているという発想が面白い。このような発想をした脳の働きを「脳内シアター」と名付けたものであろう。歳時記では「鰯雲」と漢字で表記されるのが一般的である季語を「イワシ雲」とカタカナ混じりの表記にしたのは題名の「脳内シアター」のカタカナ混じり表記と名前のカタカナ表記に関連付けたものと考えられる。帯には脳が割れて中から卵の黄身の出るようなイラストが、白い描線

で描かれている。内容は過激だが、淡泊な表現手法のため、嫌悪感は抱かれることはない。帯文には次のように、読者の購買意欲をそそるコピーが書かれ、思い切り創作を楽しんでいる様子が窺われる。「奇オシラヒゲハジメによる、／現代俳句集第二弾。『脳内シアター』新星のごとく俳句シーンに現われ、新人賞を総なめにし、百五十万部の売り上げを叩き出した前作、／『君の囁んでいるガムを僕に下さい。』から約二年。ついに長い沈黙を破り、いよいよ解禁!!!」

6. 結論

一般的に、明朝体は叙情的で、ゴシック体は力強さを感じさせると言われている。フォントに特別な意識を向けたいうえで、あえて明朝体を選んだ学生が17作品と一番多かったのは、代表句や題名にふさわしいと判断したためであることが、授業最後のプレゼンテーションで確認できた。デザイン体が14作品と、明朝体に次いで多かったのは、フォントに工夫をすること、という指示を忠実に作品化したものと考えられる。ゴシック体は俳句内容と題名の印象に相応しいフォントとして選ばれたと考えられる。

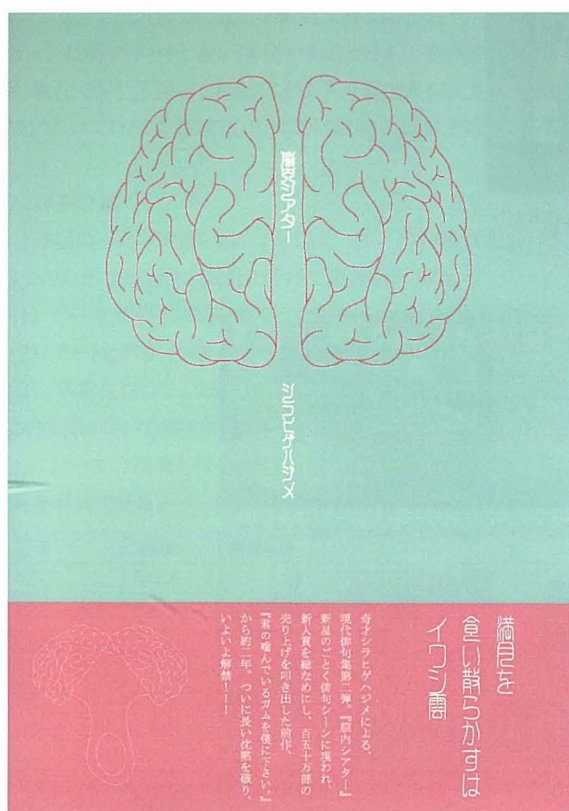
以上のように、さまざまなフォントを選んだ学生がいるが、各自の表現しようとする内容に応じたフォントを選ぼうとした点は評価できる。この点において、今回の授業は成功したと考える。

今後は本体と帯との一体感まで計算したデザインと言語表現を目指し、より洗練された作品作りへと導いてゆきたい。

平成23年度以降は、「俳句とコピーライティング」の授業はこの方針で授業実践を積み重ねていき、新たに「俳句と動画表現の融合」というテーマで、教材研究を進めていく予定である。

注1)「ビジュアルと言語表現の融合におけるデザインの可能性―「俳句とコピーライティング」の効果的な教育指導法を目指して」岡山県立大学デザイン学部紀要vol.16 No.1 2009年3月 53頁～56頁

*ビジュアルと言語表現の融合におけるデザインの可能性 柴田奈美・桑野哲夫・八尾里絵子・木塚あゆみ



(1) 明朝体 (17作品)



<あの夜の君に> <千夜一夜> <2> <おかえり> <春雨時> <鯨骨生物群句集> <花道>



<新月> <閉じた眼、その先。> <ころん、> <返り咲く> <刻が止まるその瞬間> <18> <道>



<路〜みち〜> <儂き雪> <追憶>

(2) ゴシック体 (5作品)



<WITH YOU WITH ME> <アラーム> <ほっか色> <しろ> <片隅のうた>

(3) デザイン系字体 (14作品)



<脳内シアター> <放課後セレナーデ> <スロースターター> <HOT 日和> <春を迎えに行ったのかい?> <ユメウツツ> <しみ出す>



<手袋とマフラー> <かけろう> <春を迎えに行ったのかい?> <生活科> <ひだまり> <もーにんぐこーる> <時流し>

(図4)

*ビジュアルと言語表現の融合におけるデザインの可能性 柴田奈美・桑野哲夫・八尾里絵子・木塚あゆみ